

◎生物応用化学科

主任 河村 秀男

1. 基本方針

教育の水準と質および教授法の向上に務め、専門分野への関心と習熟度・応用力を養う。

1. 1 教育関係

- [1] 授業方法の改善
- [2] 授業内容の改善
- [3] 低学年における指導体制の改善
- [4] 学生指導の改善
- [5] JABEE への対応
- [6] 入学者選抜方法の改善

1. 2 PR関係

- [1] 志願者増員への対策

2. 平成16年度実施計画

2. 1 教育関係

- [1] 授業風景のビデオ撮影を行ない、昨年度定めた教育に関する重点目標の達成度を評価する。(5月上旬に教育改善委員会で実施日を決定し、5月下旬までに実施する)
 - ・ビデオ撮影は予定時期にすべての教員について実施し、各教員が重点目標の達成度を評価した。
- [2] 公開授業を年2回実施すると共に、原則として全教員最低1回の授業参観と報告を行なう。(5月下旬までに教育改善委員会で担当教員を決定し、前期中に実施する)
 - ・実施時期は後期となってしまったが、本学科の2名の教員が公開授業を実施した。他の教員はどちらかの公開授業に参加し、報告を行なった。
- [3] シラバス、カリキュラムの点検と見直しを行なう。(来年度のシラバスに反映させる)
 - ・シラバス、カリキュラムの点検、見直しを行ない、来年度のカリキュラムに反映させた。
- [4] 各科目のレベル設定の方法を検討する。(来年度のシラバスに反映させる)
 - ・各科目毎の到達目標を設定した。レベル設定はこれを利用することにした。
- [5] 授業に関する学生の要望に関するアンケートを実施し、分析を行なう。(前・後期それぞれ1回ずつ実施する)
 - ・前期中間試験後に実施し、各教員がその後の授業改善に反映させた。後期については実施できなかった。
- [6] 学科独自の実力試験を実施し、分析行なうと共に報告書を作成する。(後期における専門学科の実力試験として実施する)
 - ・2月に1～5年生の全学生を対象として実力試験を実施した。H17年度の紀要に発表の予定である。
- [7] 低学年について、進路、専門科目への興味に関するアンケートを実施し、分析を行なう。(専門学科で対応する特別活動の時間帯に実施する)
 - ・1年生と2年生について、後期の特別活動の時間帯にアンケートを実施した。
- [8] アドバイザー制度を機能させる方法について検討する。(学科会議において、定期的に報告を行なう)
 - ・実施できなかった。

- [9] 学生指導について、取り組み方法を学科会議で検討し、実施する。(学科会議において5月中旬までに実施方法を決定する)
- ・検討できなかった。
- [10] JABEE 及び「生物応用化学プログラム」に対する学生の理解を深めさせる。(4月上旬に学生にプログラムの説明を行なう)
- ・4月に本科4、5年生および専攻科1、2年生に平成16年度版の「履修の手引き」を配付すると共に、担任および専攻主任よりプログラムの説明を行なった。
 - ・本科4年生と5年生の教室内、および専攻科2階の壁に学習・教育目標を示したパネルを掲示した。
- [11] 学科で実施している推薦入試の選抜方法について検討する。(定期試験の結果を追跡調査し、今年度の推薦入試に反映させる)
- ・実施できなかった。
2. 2 PR関係
- [1] 学科紹介のためのパンフレットを新規に作成する。(6月中旬までに作成し、県内および近隣の中学校へ配付する)
- ・6月までに作成し、県内および近隣の中学校へ配付すると共に、学科ホームページ内の「中学生のみなさんへ」において公開した。
- [2] 体験学習、体験入学の実施方法について検討し、実施する。(学科会議で検討し、5月中に実施方法を決定する)
- ・実施テーマを学科会議において検討し、1時間程度を掛けて行なう化学実験を2テーマ新たに実施することを決定し、実施した。
 - ・昨年度と同様に、実験結果を書き込むための夏季体験学習実験ノートを作成し、参加中学生に配付した。

○ 総括的な評価と課題

- ・シラバスの見直しにより、平成17年度からセルフプランニング実験の導入を計画するなど、創造力の涵養に向けた取り組みを始めたことは評価できる。
- ・推薦入試の受験者に体験学習に参加した生徒が多くいることから、体験学習は受験者の増員に有効であると思われる。
- ・授業のビデオ撮影や公開授業、実力試験などを実施したが、結果の分析が終わっていない。PDCAサイクルを動かすためにも来年度の目標設定の前にまとめ、結論を出す必要がある。